

記事掲載の御礼と一部誤認部分に関する訂正のご依頼

この度は、東京レインボープライド2022にご来場、ご取材いただき誠にありがとうございました。また、記事も複数掲載いただき、重ねて御礼を申し上げます。

その中で、2022年4月24日「ハフポスト日本版」にて「**LGBTQ差別の企業の出展はおかしい**」**ゲイ当事者が『アクサ』と実行委に抗議【東京レインボープライド2022】**と題して、東京レインボープライド2022（以下、TRP2022）に関する記事を掲載いただきましたが、記事内容に事実と異なる部分がありました。

今回の記事が「LGBTQを取り巻く差別」という事象に対して、差別を受けたと感じた生活者側の視点に立ち、孝則さんの心情を汲み取った内容の記事であることは十分に理解をしております。

ただ、事実と異なり、読者様に誤認させてしまう可能性のある内容については訂正をお願いできればと思います。

特に、近年、会場にはお子さま連れや10代、20代の学生も増え、当日のボランティアも若い世代が増えてまいりました。誰もが安心・安全にイベントを楽しんでいただく場所を提供するためにも、万が一に備えた判断であることをご理解いただけますと幸いです。

下記に【1】当該記事における事実とは異なる4点、および【2】該当部分の訂正依頼を記載しますので、ご確認いただき、当該記事の訂正をお願いいたします。

記

【1】当該記事における事実とは異なる点（記事より抜粋）

①

孝則さんが「TRPについても問題提起をしたい」と話していることについては、「現時点では、抗議された男性からの具体的な問題提起の内容を伺っていないため、回答はできかねます」とした。だが孝則さんは23日、TRPの代表者の1人と具体的な内容について話しており、「思いは分かるけれど、方法が難しいよね」「LGBTQコミュニティへの貢献度を取り入れることは、今後の検討課題にできるかもしれない」といった会話があったという。

②

会場を巡回していたTRP実行委は「スポンサーへの妨害行為」として警察に連絡し、抗議活動をやめるよう求めた。実行委は「別の参加者からの通報依頼を受け、イベント参加者の皆様の安全等万を一を考えて警察に連絡いたしました」と説明する。

③

孝則さんはTRP実行委に「平和のLGBTQの祭典で、スポンサーや来場者の安全を脅かすのはやめてください」「スポンサーに迷惑をかける行為があったので、止めにきました」などと言われたという。

④

◆TRP実行委はLGBTQフレンドリーの判断基準について回答せず

ハフポスト日本版はTRP実行委員会に、イベント内で抗議が起こったことへの受け止めや、スポンサー企業の選定過程などについて複数の質問をした。

TRPに出展する企業団体の選定基準について、実行委はメールで「弊団体の活動目的、LGBTQをはじめとするセクシュアル・マイノリティの存在を社会に広め『“性”と“生”の多様性』を祝福するという、TRP2022の趣旨にご賛同いただけること、その他弊団体所定のルールを遵守していただける企業・団体様に出展してもらっています」と回答。

孝則さんが「TRPについても問題提起をしたい」と話していることについては、「現時点では、抗議された男性からの具体的な問題提起の内容を伺っていないため、回答はできかねます」とした。だが孝則さんは23日、TRPの代表者の1人と具体的な内容について話しており、「思いは分かるけれど、方法が難しいよね」「LGBTQコミュニティへの貢献度を取り入れることは、今後の検討課題にできるかもしれない」といった会話があったという。

「出展する企業の審査について、LGBTQフレンドリーの取り組みをどこまで確認しているのか」「当事者から企業ブースに抗議があったことについてどう受け止めているか」「どのような基準をクリアすれば、『プラチナスポンサー』に認定されるのか」といった質問については、回答はなかった。

【2】該当部分における訂正依頼

①当該記事において、「孝則さんが「TRPについても問題提起をしたい」と話していることについては、「現時点では、抗議された男性からの具体的な問題提起の内容を伺っていないため、回答はできかねます」とした。だが孝則さんは23日、TRPの代表者の1人と具体的な内容について話しており、「思いは分かるけれど、方法が難しいよね」「LGBTQコミュニティへの貢献度を取り入れることは、今後の検討課題にできるかもしれない」といった会話があったという。」と記述がございます。

こちらは、「『アクサグループ』と『TRP実行委員会』に対し、抗議活動を行う一幕があった。」の記述から、アクサグループ様のブース内にて抗議文章を読み上げる形で行われたと認識しておりますが、孝則さんから、正式に弊団体へ抗議内容を伺っていないため、「具体的な問題提起の内容を伺っていないため、回答はできかねます」とお答えさせていただきました。

「TRPの代表者の1人と具体的な内容について話しており」とございますが、以前から面識がある代表の1人がご本人様とお話をし、「迷惑をかけるつもりはなかった。ブースの位置がいい場所にあり許せなかった」という旨の内容は聞いておりますが、記事にあるTRPに対する具体的な抗議内容まではお伺いしていないという認識でございます。

②「会場を巡回していたTRP実行委は「スポンサーへの妨害行為」として警察に連絡し、抗議活動をやめるよう求めた。実行委は「別の参加者からの通報依頼を受け、イベント参加者の皆様の安全等万ーを考えて警察に連絡いたしました」と説明する。」とございますが、弊団体が実際に回答した内容は、「抗議をした男性はイベント出展者のスタッフであり、イベント出展中に起きたトラブル等につきまして、弊団体は介入できないことを予めお伝えしております。別の参加者からの通報依頼を受け、弊団体のスタッフがイベント参加者の皆様の安全等万ーを考えて警察に連絡いたしました。」でした。貴社から「警察を呼んだ経緯」をご質問いただき、イベント開催中であつたため急ぎの文面で説明が足りない部分はございましたが、抗議をしていた男性が出展者がつけるリストバンドをしていることから、弊団体にとっては、アクサグループ様も抗議をしていた男性もいずれも出展者であり、本件は「スポンサーへの妨害行為」ではなく、「出展者同士のトラブル」という認識をしておりました。

弊団体のスタッフがどちらの出展企業・団体かをたびたびお声かけしたものの冷静にお話しただけの状況ではなく、出展者同士のトラブル、出展中のトラブルについては主催側が独断で判断、対処はできないため、参加者からの依頼を受けて参加者の皆様の安全を第一に考慮し万ーに備え警察へご連絡いたしました。

孝則さんが出展者のスタッフであつたという内容が記載されていない点、「抗議活動自体を「妨害行為」として通報した」という印象を与えかねない文脈は事実とは異なりますので、訂正いただけますと幸いです。

③「TRP実行委に「平和のLGBTQの祭典で、スポンサーや来場者の安全を脅かすのはやめてください」「スポンサーに迷惑をかける行為があつたので、止めにきました」などと言われたという。」との記述がありましたが、今回の抗議活動が行われた周辺にいた運営スタッフおよびPRスタッフに確認いたしました。このような発言はしていないことを確認しております。

④「TRP実行委はLGBTQフレンドリーの判断基準について回答せず」の見出しで記述されている内容に対して、弊団体からは「弊団体の活動目的、「LGBTQをはじめとするセクシュアル・マイノリティの存在を社会に広め『“性”と“生”の多様性』を祝福する」という、TRP2022の趣旨にご賛同いただけること、その他弊団体所定のルールを遵守していただける企業・団体様に出席していただいております。」と回答いたしました。

また、「出展する企業の審査について、LGBTQフレンドリーの取り組みをどこまで確認しているのか」「当事者から企業ブースに抗議があつたことについてどう受け止めているか」「どのような基準をクリアすれば、『プラチナスポンサー』に認定されるのか」といった質問については、回答はなかった。」とございましたが、質問は口頭で伺つたものであり、こちらで控えたご質問内容のメモと相違がございます。

以上、4点が当該記事における訂正依頼となります。

繰り返しになりますが、今回の記事が「LGBTQを取り巻く差別」という事象に対して、差別を受けたと感じた生活者側の視点に立ち、孝則さんの心情を汲み取った内容の記事であることは十分に理解しております。

LGBTQフレンドリーな社会実現に向けて、世の中に対して、正しく理解していただけるよう、弊社団体といたしましてもより一層努力をしていく所存ですので、当該記事における事実と異なる点については、訂正をお願い申し上げます。